

禅昌寺〈ぜんしょうじ〉の山門（須磨区禅昌寺町）

禅昌寺〈ぜんしょうじ〉の山門は、左甚五郎〈ひだりじんごろう〉がこまかい細工〈さいく〉をほどこして作ったといわれています。

山門のとびらをあげしめすると、笙〈しょう〉・箏箏〈ひちりき〉（ともに雅楽〈ががく〉に用いる笛）の音がすると伝えられ、ためしてみると、キー、ヒュー、ピーと、ねいろよく鳴ったそうです。

ところが、ある時、音が小さくなってしまったので、近くの大工〈だいく〉さんにたのんで修理〈しゅうり〉をしました。しかしぎゃくに、よけいに音が悪くなってしまいました。人びとは、「名人の作った細工は、誰にも修理できるはずがない。」と考えて、それからは門がいたんでも、そのままにしておくことに決めたといえます。

また、この禅昌寺の境内〈けいだい〉に、戸沢光盛〈とざわみつもり〉のお墓があります。

光盛は、天正十九年（一五九一年）に豊臣秀吉の命令で朝鮮征伐〈ちょうせんせいばつ〉にいくため、塩屋の村までやってきました。しかしそこで、はしかにかかって十七才で死んでしまったのです。このため、この光盛のお墓にまいると、はしかにかからずにすむとあって、多くの人びとがそこにおまいりをしたようです。

（『西摂大観』）